## ２０．医療材料を安全性・効率性・経済性を踏まえ標準化し、コスト削減に結びつける

慶應義塾大学病院　　安藤　朋子

**【背景】**

当院は、1056 床の特定機能病院であり、医療資材に対する予算は、全体予算の約 10%、約 3 億円程度である。今まで院内では、高額資財または新規採用資財の検討は実施してきたが、過去に採用された資財に関しては、検討する場がなく結果同種同効品の増加や特別注文品の精査が十分になされていない現状があった。今後当院は、医療情報システムの導入や新病院棟建設を控え、資財の運用管理の効率化と収支の改善が早急に求められている。よって自己の課題は、業務担当副看護部長として、資材管理を円滑にする為に、医師、資材管理事務部門、物流担当業者、看護部が協働し、病院が目指すべく資材の適正管理に向け、資材の削減および横断的に資材管理ができるシステム構築と医療情報システムを推進するための資財の標準化を課題に取り組んだ。

**【実践計画】**

目標１：院内採用資材を１万資材から常時稼動している３千資材程度に削減し、経済効果につなげる。

方法：１）院内でマスタ登録されている在庫資材を精査し、6 ヶ月現在院内に登録されている資材を精査し、６ヶ月間払い出しのない資材リストを用度課が作成し、「資材検討委員会」管理の基、各診療科・各部門にリストを配布、調査を依頼する。

２）削除資材を病院用度課、委託業者が精査した結果を資材検討委員かで承認、院内登録より削除する。

目標２：院内採用資財の院内標準化と検査・処置資財の標準セット化

方法：１）院内登録資材を用度課管理の基、委託業者、看護部が協働し同種同効品・特注品を精査する

２）処置・検査に関わる資材を標準化し、医療情報システム導入に向けて、管理運用できる資材

のセット化を推進する。

**【結果】**

目標１：

1.院内登録資材 13000 品目であり、内 6 ヶ月間で払い出し実績の無いものは 5000 品目であった。

特に看護師が主に使用する稼動資材は 2500 品目程度であった。しかしこの中で 6 ヶ月の払い出し実　　績が 10 以下の資材が約 2 割程度あることから、稼動資材は約 2000 品目まで削減可能と考える。

2.資材削減は、特に手術室や治療検査室など高価資材であり且つ滅菌資材等も多く、使用実績がない資材の在庫は、廃棄であり（過去 2 年で約 250 万円の損失)、手術室・検査治療室の削減は有効であったと考える。

目標 2：

1.部署別資材の削減と経済効果

1）手術室取り扱い資材の削減と効果

手術資材の精査は、滅菌資材で且つ品種が多い針糸を精査した。針糸の６ヶ月間の払い出し実績を各診療科から追跡し、安全性、効率性を鑑み精査した結果、311 品目から 153 品目に削減することができた。また針糸は滅菌資材にも関わらず部署在庫としていた為、期限切れ廃棄による損失と合わせると年間 290 万円の経済効果が見込まれた。

2）検査治療室取り扱い資材の削減と効果

今までそれぞれの資材業者により預託在庫管理にしていたが、管理方法を変更し院内業者が統括管理するシステムに変更した。院内業者が中心に医師・看護部・病院事務が協働し、治療に合わせた資材統一を実施し、更に定数在庫数を減らしたことで年間約 320 万円削減が見込まれた。

３）病棟・外来取り扱い資材の削減と効果

現在主に病棟・外来で取り扱う 2495 品目を研修者が統括する業務委員会、事務部門、業者でリスト化、更に項目別に以下の 12 項目にカテゴリー化した。

①血管内留置カテーテル　②呼吸関連資材　③吸引関連資材　④輸液・注射関連資材

⑤ドレーン関連資材　⑥血糖採血・インシュリン関連資材　⑦排泄関連資材　⑧テープ被覆剤

⑨滅菌・消毒・主知関連資材　⑩経管栄養関連資材　⑪文具・雑貨　⑫印刷物・帳票類

| 項目 | 資材名 | 同種数（現在数） | 標準化後の数 | 年間減額 |
|---|---|---|---|---|
| 輸液・注射関連資材 | | | | |
| | 末梢用輸液セット | 8 | 3 | |
| | CV 用セット | 6 | 2 | |
| | 側管用セット | 6 | 3 | |
| | エクステンションチューブ | １３ | 4 | |
| | 三方活栓その他 | 7 | 2 | |
| | | | | １７５万 |
| ドレーン関連資材 | | | | |
| | 胸腔ドレーンバック | 3 | 1 | |
| | 接続チューブ | 20 | 4 | |
| | | | | 54 万 |
| 経管栄養関連資材 | 経管栄養ボトル | 3 | 1 | |
| | 接続チューブ | 2 | 1 | |
| | | | | ３６万 |
| 文具・雑貨 | ビニールエプロン | （2） | （3） | ２６０万 |
| 上記に加え手術室・治療検査室の削減額を加え約１０００万の減額 | | | | |

12 のカテゴリー項目から４項目に絞込み、同種同効品を精査し院内統一し標準化に向けた。院内標準化は、安全性・効率性の面でも新採用者を含む看護師の指導教育に果的であった。

また経済性の点では、手術室・治療検査室を加えると約１０００万の削減が見込まれた。中でもビニールエプロンに関しては、種類としては、増えることになったが部署・特性にあわせタイプを増やしたことで再度新たな価格交渉が出来更なる削減につながった。

２.処置・検査に関わる資材を標準化し、資材のセット化を推進する。

１）医療情報システム（以下電子カルテ）導入に向け、医師の指示により、必要物品の準備、手順、

実際、更に会計システムへの連動を現在構築していく上で下記の検査・処置についてセット化を進めた。セット化は、処置・手順マニュアル、看護標準計画（院内作成)、カルテ記載等を電子カルテ導入時にスムーズな移行できるシステムにするためにマニュアルとの整備も含め現在作業を進めている。

①CV 挿入　②A ライン挿入　③心のう穿刺　④胸腔穿刺　⑤骨髄穿刺　⑥胃管挿入　⑦腎生検　⑧肝生検　⑨気管切開

**【評価及び今後の課題】**

当院は今まで資財の管理運用は、病院用度課を中心に「医療材料検討委員会」「SPD 定例委員会」で検討、承認をしていたが、中々横断的に情報の共有がなされず、資財整理に着手できなかった。病院情勢が新病院建設、医療上システムの導入というタイムリーな時期にこの課題に取り組むことができ、医師を含む関連部門と協議し、安全性を担保しながら、経済効果を引き出すことができたと考える。この取り組みを継続し、病院収支に貢献していくことが課題である。